

しいのき



収蔵品のほほえみ

館長 比田井 克仁

当館には区民の皆様からご寄贈をいただいた200体を越えるこけしが収蔵されています。皆様もご存じのとおり、こけしは東北地方の代表的な民俗資料です。震災から1年を越え、館収蔵庫に眠っている「こけし」たちも故郷の様子を気にかけているに相違ないと、館員一同考えました。そこで、復興への願いを込めて「こけし展」を計画し今年6月2日から7月14日まで開催の運びとなりました。おかげさまで大変好評で、「こけし」達もさぞかし喜んでいるものと思います。しかし、こけし達の表情から察すると「春が過ぎ みちのくの里 思ひつつ ほほ笑む面に 憂い見るかな」といったところが本音のところでしょうか。

これからも、さまざまな企画を展開してまいりますので、よろしくご支援のほどお願い申し上げます。

文化財よもやま話

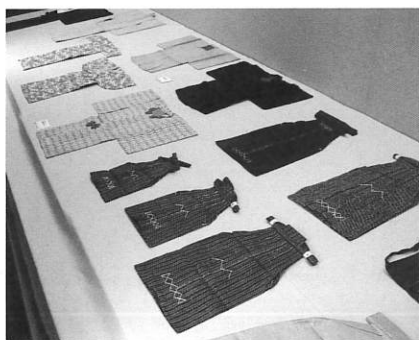
裁縫道具とひな形展を終えて

平成24年6月23日～7月22日にかけて特別展「裁縫道具とひな形」を開催しました。裁縫道具と聞けば、どんなものが展示されたか想像がつくと思いますが、裁縫ひな形（以下、ひな形）についてはどうでしょうか。

ひな形とは、明治から昭和にかけて学校や裁縫教室などの授業で制作された衣服のミニチュア版のことです。明治7年ごろに、東京家政大学の創始者である渡辺辰五郎が考案したひな形尺という物指しを使って制作されました。これを使うことで、実寸法の約1/3、大きさにすると約1/9の衣服を作ることができ、時間や材料の節約にもなり、効率的に裁縫を学習することができました。

今回展示した20点あまりのひな形は、明治14年（1881）生まれの安田ハルにより制作されたものです。結婚したのち裁縫教室を開いていた際に制作したと思われるひな形は、大人用の着物・袴・股引から子供用の帽子や蚊帳まで様々なものがあります。制作時期は、明治30年代～40年代ごろと考えられます。晩年中野区に住んでいた縁もあり、平成20年にご家族の方より寄贈を受けました。

また裁縫道具のコーナーでは、火のし・こて・くけ台などの和裁の道具や、ミシンなどの洋裁の道具などと共に、裁縫関連の書籍なども展示しました。衣服は「買うもの、という時代になって久しいですが、かつては家庭で「作るもの、であった」ということを再確認していただけたのではないのでしょうか。



裁縫ひな形展示風景



針箱

大地に眠る歴史

中野区の遺跡（11）

前号では6世紀前半までの古墳と遺跡について紹介しましたが、続く6世紀後半の遺跡は今のところ発見されていません。再び遺跡が認められるのは7世紀に入ってからです。

北部では平和の森公園遺跡と新井三丁目遺跡で1軒・野方三丁目の北原遺跡で1軒、南部では本町二丁目の成願寺北遺跡で1軒、弥生町六丁目の広町遺跡で3軒、南台五丁目の向田遺跡（現中野みなみ保育園）で2軒の住居跡が調査されています。出土土器の年代からいずれも7世紀の前半代の集落遺跡の一部と考えられます。

この時代の住居は6世紀代と同じもので、一辺数mの四角形か長方形の堅穴を掘り、一辺に炊事施設としての「かまど」を設けるものです。



向田遺跡（現中野みなみ保育園）2号住居跡と出土土器

ところで7世紀代は大きな変革期にあたります。6世紀末から聖徳太子を中心として推進された大陸文化の積極的な吸収は、新たな国家体制である律令制の導入を図ることになります。これは、法律に基づく体制を広く日本中に広めようというものでした。

それまで各地それぞれの決まりごとによって維持されてきた各集落は国家的な大きな枠組みに再編成されることになりました。近畿地方で天皇を中心とした主導性が確立すると周辺地域にその体制が広がっていきました。

関東地方にこのことが波及したのは西暦645年の東国国司の派遣が大きなきっかけと考えられています。上記した中野区内の遺跡はこの時期に存在した集落の跡と考えられるものです。（つづく）

知られざる中野の偉人 特集 中島菊夫

やや急な話ではあったのですが、マンガ家・中島菊夫の遺品の一部が中野区へ寄贈されました。そこで資料調査を行ったところ、マンガなどの著作物だけでなく、太平洋戦争末期の児童が描いた絵画や鷺宮の地域ニュースを発見。区にとってかけがえのない資料であることが判明しました。

現在では「知る人ぞ知る」といった存在の中島菊夫ですが、ここに特集を組んでご紹介します。

(文中敬称略)



中島菊夫（本名・喜久夫）

1897（明治30）年10月8日、今の高知県香南市の生まれ。最初は地元で小学校の教員、後に東京で挿絵などを描きます。1935（昭和10）～41（同16）年に少年向け雑誌「少年倶楽部」でマンガ「日の丸旗之助」を連載し、人気を博しました。

戦中から戦後にかけて今の鷺宮小学校の教員となり図画の授業などを受け持ち、戦争末期には児童の引率者として疎開先の福島県へ同行しました。代表作「日の丸旗之助」のほか「コロコロ太郎」や伝記漫画文庫シリーズ、童話や絵本など、作品は多様で多数にわたります。

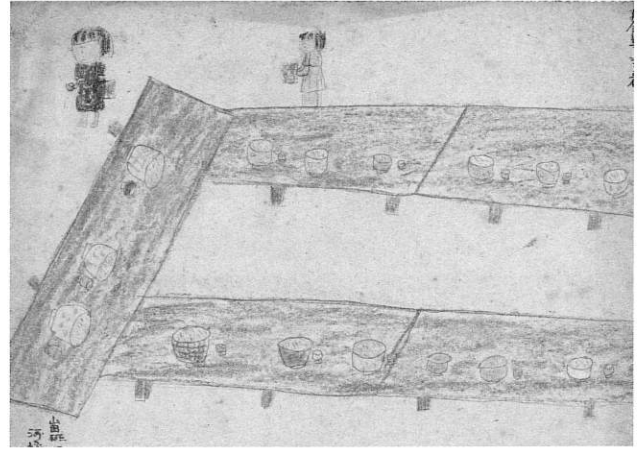
疎開の子とともに

疎開（学童疎開）とは

太平洋戦争の末期、空襲が激しくなると子どもたちを安全な所に避難させました。これを（学童）疎開といいます。最初は親類縁者を頼った縁故疎開、後に学校単位で避難する集団疎開が行われました。

中野区では南部の学校が主に長野県へ、北部が主に福島県へ避難しました。第一次は1944（昭和19）年8～9月に3～6年生が、第二次は翌年3月、卒業する6年生と入れ替わりに新1～3年生が親元を離れて旅立っています。

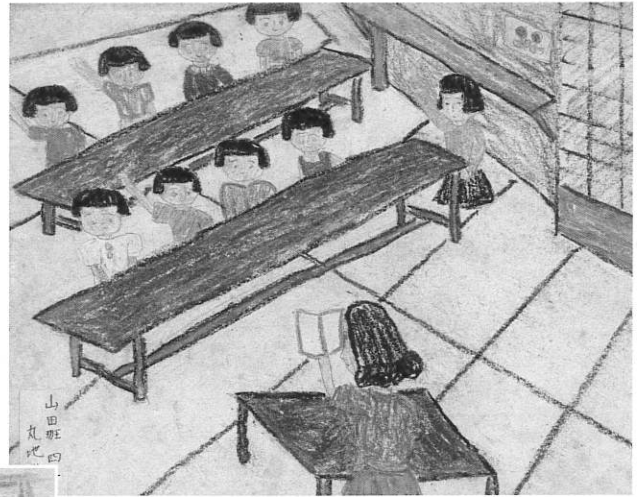
子どもの絵に見る疎開先の一日



食事当番

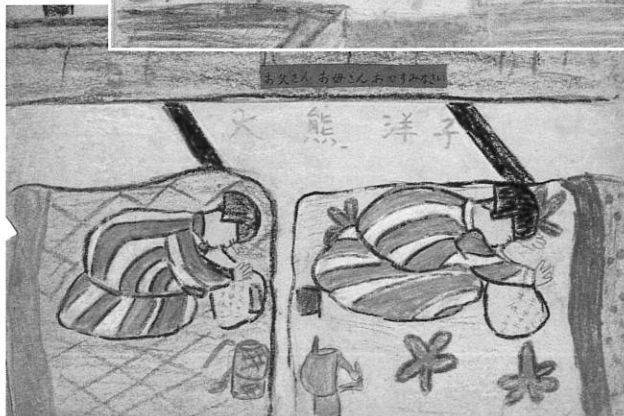
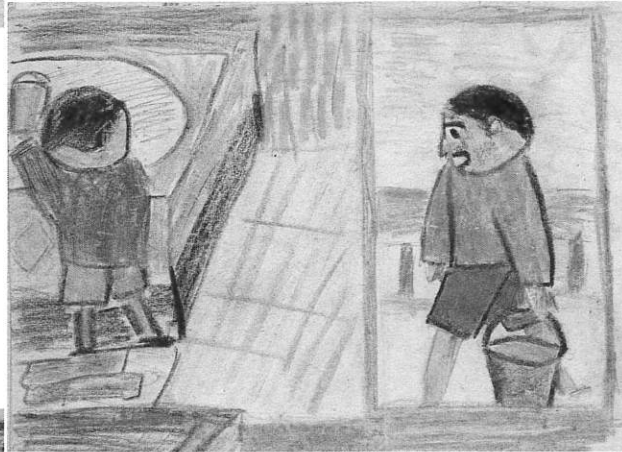


畑仕事



勉強

風呂
水くみ



就寝



疎開先にて。前列中央が中島で、その斜め後方の女性が妻・さと子。



家から荷物が届く

「慰問新聞」

中島菊夫が制作し、子どもたちの疎開先へ送った手作り新聞です。まず地元・鷺宮の様子を描き、絵日記の作り方や演芸会のやり方、創作マンガなど楽しい記事がいっぱい。途中からは中島自身も引率で疎開地へ行ったため、名称を変えて子どもたちと一緒に作るようになりました。

また、戦時中の一時期しかない校舎の火の見櫓や写真が残っていない校内の様子が描かれるなど、歴史を物語るものとしての側面も見逃せません。

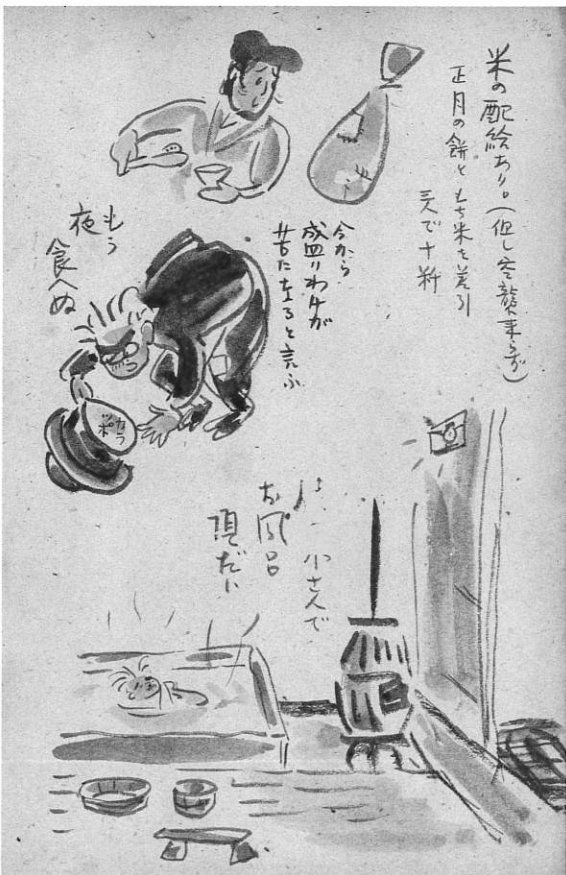


「となり組日記」

隣組は、近隣の10軒ほどを1組とする行政の末端組織です。相互監視と上意下達の性格が強くて息苦しいものですが、配給物資の分配も担当したため生活上不可欠なものでした。

そうしたギスギスしがちな関係を少しでも和らげようと、中島が日常のささやかな笑い話や暮らしの知恵を集めたコミカルな「大人の絵本」です。1945（昭和20）年の元旦に始まりましたが、児童の引率のため中島が鷺宮を離れたので、3月28日で終わってしまいました。

学校へ初出勤の姿



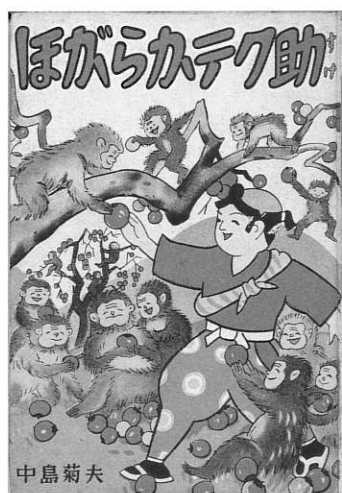
マンガ家・絵本作家として



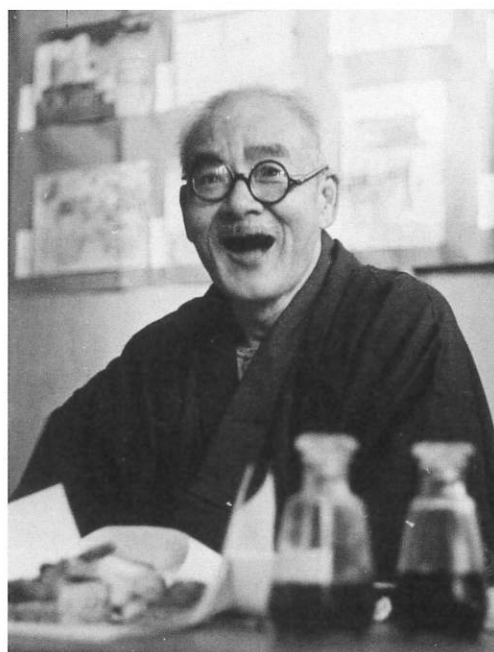
代表作・日の丸旗之助

1935（昭和10）年から足かけ7年間、少年向け雑誌「少年倶楽部」に連載されました。同じ雑誌に載った「のらくろ」や「冒険ダン吉」と並び、少年倶楽部のビッグ3とまで呼ばれる作品です。

お城の若君の世話係になった少年・日の丸旗之助が、得意の二投流投げ縄と機転を利かせて悪者をこらしめたり事件を解決したりする内容で、「のらくろ」や「冒険ダン吉」に比べ平和で心優しい作品。戦後、懐かしむ声に押されて復刻版も出版され、人々に親しまれました。



読者からも教え子からも愛され親しまれた中島菊夫ですが、1962（昭和37）年4月21日、惜しまれつつ没。享年64歳。小平霊園に眠ります。



歴史民俗資料館では、今後もこのような「知られざる偉人」を発掘し、紹介していきます。

古文書つづり

同じ「殿」でも 大違い

小館でも学校の夏休み期間中に子ども向け事業をあれこれ実施しました。本欄担当者、今年はその事務作業も担当し、申込葉書が個性豊かなことに驚かされました。淡々と必要事項を書いたものが一番多いのですが、なかにはカラーペンを多用したり意気込みを述べたり、去年は落選したので今回は何としても…とプレッシャー(?)をかけてきたり。抽選は機械的に振った番号を使うため結果に影響ないのですが、それでも特徴ある書き方をした葉書は担当者の印象に残ります。

実は最も印象に残っているのは、抽選結果を通知する返信用葉書の自分(の子)の名前に「様」をつける例。最初はいちいち驚いていましたが、同様の葉書を何十枚と処理していくうちに「行」や「宛」を消して「様」を書き込む手間が必要ない分、ありがたいような気まできました。

しかし古文書の世界でそうはいきません。

平安時代の中頃から、私的な手紙にも書き方のルールが定まってきました。これを、書札(手紙)の儀礼(礼法)なので「書札礼」といいます。最初はほんの数箇条でしたが、後には流派もでき詳細かつ複雑化。ただし、どの時代どの流派でも、内容は「書札」と「故実」についての定めです。

まず「書札」は、差出人と受取人の身分関係により使う言葉を換えて敬意の軽重を表現する技法です。では「故実」はというと、用いる紙の質や文字の書きぶり・封筒の種類を使い分けて相手への姿勢を表現するやり方を指します。

ここで挙げましたのは故実の例。宛名に添える「殿」も、楷書に近く敬意の高いものから平仮名にしか見えないぞんざいなものまで様々です。

つい堅苦しく感じる手紙の書き方ですが、自分自身に「様」をつけた葉書が喜ばれるほど、今の書札礼は緩やかなものになっているのです。

殿 殿 殿 殿 殿

▲『くずし字用例辞典』より集字。

中野往來

中野区誕生80年

今年10月1日で、中野区が誕生して80年になります。東京市に編入された中野を物語る2つの資料を紹介します。

西武新宿線沼袋駅北口より東へ数分歩いた沼袋1丁目31-4に「沼袋のおひかわさま」と、親しまれている氷川神社があります。大鳥居をくぐると右手に「東京市域拡張記念松 昭和七年十月一日 東京市長 永田秀次郎書」と刻まれた石碑が建っています。現在、松の木は枯れてしまい、もうありませんが、この石碑は、80年前を知る貴重な資料です。

東京市に隣接する近郊町村は、第1次世界大戦後、大正8(1919)~9年頃から人口が増えはじめ、大正12年の関東大震災を契機として急激に人口が増加し、都市化していきました。そのため、東京市は、昭和7年10月1日、これらの隣接する5郡82箇町村を合併し、人口531万人を擁する大東京が成立しました。ここに中野町と野方町が合併し、

東京市に編入され、東京市中野区が誕生しました。



もう一つの80年は、東中野小学校の校章に見ることができます。

東中野尋常小学校は、中野区誕生の前日、昭和7年(1932)年9月30日開校しました。昭和20(1945)年5月25日の空襲で校舎が全焼し、廃校となりました。その後昭和32(1957)年に新たに東中野小学校として開校されました。校章は、桜の花を地として、東京市の紋章を重ね、その中に「東」と「中」を図案化して配したもので、東中野尋常小学校の校章を受け継いでいました。(東中野小学校は、現在昭和小学校と統合し、白桜小学校になっています。)

事業報告

各種事業経過

2011年10月～2012年9月

事業名	内 容	期 間
企 画 展	「調理と食器の5000年 縄文土器から炊飯器まで」 「おひなさま展」 「中野の原点・発掘展」 「日の丸旗之助の作家 中島菊夫と中野の子どもたち」	12/3～1/14 2/11～3/11 5/12～6/24 7/21～9/2
特 別 展	「小さきものを愛でる」 「(伝)(カ)の方法」 「新美南吉と中野」 「端午の節句展」 「裁縫道具とひな形展」 「物をつくる道具展」	11/3～12/4 1/14～2/12 3/24～4/8 4/21～5/13 6/23～7/22 9/1～9/30
夏 休 み 業 務	「あんぎん」8/2「学習相談」7/24～8/31「火おこし」7/24・8/4「土器作り」8/26「昔のくらし体験」8/1・17「鯛車作り」7/29・8/10「紙すき」7/27「押し絵作り」8/17「勾玉作り」7/31・8/7「江戸紋切りでモビール作り」8/9「張り子作り」7/25	
講 座	古文書講座 講師：笠原 綾氏 (NHK学園専任講師) 古文書講座 講師：大友一雄氏 (国文学研究資料館教授) お神楽講座 講師：萩原正義氏	9/24・10/1・8 10/22・29・11/5 3/4・11
公 事 開 業	秋季「山崎家茶室書院公開」 春季「山崎家茶室書院公開」	10/1～11/30 4/28～5/6
埋 蔵 財 産 文 化 財 産 対 応	新井四丁目30番民有地立会 (11/8) 本町三丁目21番民有地立会 (11/8) 南台五丁目27番民有地立会 (11/9) 弥生町一丁目21番民有地立会 (11/14) 中野一丁目39番民有地試掘 (12/19) 国庫補助 江古田一丁目24番民有地試掘 (12/21) 国庫補助 中野六丁目16番民有地立会 (12/21) 弥生町六丁目9番民有地立会 (1/5) 東中野二丁目13番民有地立会 (1/9) 本町五丁目36番A棟民有地試掘 (1/19) 本町五丁目36番B棟民有地試掘 (1/19) 沼袋一丁目30番民有地試掘 (2/1) 国庫補助 江原町二丁目31番民有地立会 (2/9) 野方三丁目25番民有地立会 (2/15) 野方二丁目63番民有地試掘 (2/20) 中野一丁目33番民有地試掘 (3/2) 白鷺一丁目16番民有地始末書 (3/6) 松が丘一丁目34番哲学堂公園内確認 (3/15) 南台五丁目29番A・B棟民有地立会 (4/4) 沼袋一丁目26番民有地試掘 (4/6) 本町五丁目34番民有地立会 (4/17) 弥生町六丁目12番民有地立会 (6/7) 中野一丁目33番民有地試掘 (6/8) 国庫補助 新井三丁目31番民有地試掘 (7/17) 国庫補助 弥生町六丁目9番民有地立会 (7/19) 沼袋二丁目18番民有地立会 (7/20) 本町三丁目21番民有地立会 (8/3) 沼袋一丁目33番民有地立会 (8/9) 本町五丁目33番民有地試掘 (8/30) 南台一丁目5番民有地試掘 (9/6)	
そ の 他	小学校3・4・6学年総合学習見学 25校	10月～8月

寄贈資料一覧

2012年4月～2012年6月

敬称略：受入順

資 料 名	点数	氏 名
おひな様一式	一括	渡邊 幸子
五月人形一式	一括	藤田 修司
ストーブ	1	吉岡久美子
糸巻き、へら他	一括	松田 慶三
小玩具一式	一括	澤田千鶴枝
携帯用裁縫道具	1	西 正
アイロン	1	武藤 敏夫
こけし8体	8	竹内 洋子
掛け軸	1	宮本 喜世

◎貴重な資料をありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

入館状況

2011年10月～2012年8月(延べ275日間) (人)

一 般	団 体	学校教育	合 計
30,128	611	1,418	32,157

発行年月日 2012年10月1日

編集・発行  山崎記念
中野区立歴史民俗資料館

〒165-0022 東京都中野区江古田4-3-4

☎ 03(3319)9221 FAX 03(3319)9119